

小学校第1学年 音楽科 学習指導案

修士課程 教科教育専攻音楽教育専修 193505 柚木 たまみ

1. 単元名 ミノムシって知ってる？ーみのむしのワルツー

2. 単元の目標

(知識・技能)

- ・三拍子を知り、拍子に合わせて歌唱することができる。
- ・三拍子の拍子をステップ等の身体表現で表すことができる。

(思考・判断・表現)

- ・短調と長調の調性の違いを感じ、感じたイメージを言葉で表す。
- ・言葉遊びのユーモア性を感じ、表現を楽しみ自ら表現の工夫をしようとする。

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・楽曲のもつ面白さを他者に伝え、共感する。
- ・季節と生物の生態に意識を向け、環境への関心、他教科とのつながりを感じ取っている。

3. 単元について

(1) 教材観

小学校1年生の教科書で扱う教材には短調の楽曲が少ない。これは、児童が、まず音楽から楽しい雰囲気を感じ取るために、明るいイメージのある長調の楽曲が多く使われていると考える。ここでは、短調の調性的特徴としての抒情性・哀愁と季節感を体感し、単なる歌唱活動としてだけではなく、心情として捉える体験をすることにより情緒表現の幅を広がることを目指す。歌詞の言葉遊び的な部分にも、ユーモアを感じ取ってほしい。また、生物の生態への関心を持つきっかけとなり、生活科や理科との横断的課題として環境への関心を持つきっかけとする。主体性を持ったものづくり、総合表現という観点から、図画工作科との横断も取り入れている。

(2) 児童観

子どもたちは各教科においてICT化が進んだ中で学習をしている。一方、近年外出の機会が減り、自然や生活環境に目を向ける機会が少なくなっている傾向がある。そのような中で、生物に触れた楽曲に親しみを感じ、自然や環境への関心を意識してほしい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、季節の移り変わり、気温の変化と服装の変化等に気づかせる。教材曲を紹介し、歌詞内容に関心をつなげ、教材の概要をつかむことができるようにする。またミノムシの画像を提示し、ガの幼虫であり、自分でミノを作ることを伝え、虫の生態に関心が持てるようにつなげる。

次に、教材の構成として、三拍子であることを伝える。第1学年は既に共通教材である《うみ》を学習しているので、同じであることを提示する。その上で、《うみ》と教材曲の調性の違いに、「あかるい」「さびしい」等のキーワードをヒントに挙げながら気づかせる。この時、ニュアンスの感じ

方の違いはあるので、限定的にならないように留意する。三拍子を体感する方法として、まず手拍子と足拍子で拍子感を捉える。そして左右横揺れの動きを行い、歌唱表現と身体表現を合わせる。

そして、ミノムシの手作りアクセサリーを制作し、これを身につけて発表会を実施することを提案する。アクセサリーの色合わせは自由とし、主体的な取り組みとなるようにする。人前で発表する緊張を感じながら、聞き手を意識した表現をすることの喜びを感じることができるようにする。

発表会では、映像での振り返りができるよう、録画をしておく。多くの聴き手(教員等)を確保し、感想をいただく。また、指導者からも、全員が達成感・満足感を得られるように、個々に具体的な良かった点を伝える。録画データは、保護者等も試聴ができるように編集し、配信もできるようにしておく。

さらに、発表後感想文を書くことにより、一人一人が活動を振り返り、気づきがあったことを認識できるようにしたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

多様性：音楽には三拍子(いろいろな拍子)があること、長調と短調があって、楽しいとか寂しい等を表すこと。

いろいろな生き物の生態があること。

音楽を正しく揃えること以外にも楽しみ、一体感、達成感が感じられること。

有限性：環境が変化していき、少なくなっている生物がいること。

連携性：みんなで気持ちをひとつにして練習したことが、発表会の成功につながること。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

⑤他者と協力する態度

お互いの意見や感想を認め共感し、ともに協力しながら発表会を成功させること。

⑥つながりを尊重する態度

自分たちの発表を聴いてくれた人たちの感想を聞き、いろいろな話を聞かせてくれることにより、知らなかった昔のことを知ることができる。交流することにより地元の知らなかったことを知り、学びにつながることを自覚し、尊重する。

⑦進んで参加する態度

発表会の練習・準備の中で、並び方や振り付けを覚え、役割をふまえながら、またお互いが自由な意見を述べながら意欲的に取り組む。

・本学習で変容を促すESDの価値観

②世代間の公正

自分たちが興味を持って面白いと思える音楽を歌い継ぎ、生き物を守っていく。

④人権・文化の尊重

皆が安心して過ごすことができ、個々の表現の自由が守られている。

⑤幸福感に敏感になり、それを大切にす

「歌」が自分たちの表現手段のひとつであること。みんなで歌うと一体感が感じられる。

・達成が期待されるSDGs

目標 4 さまざまな表現手段を得て、複合的な学びを行う。

目標 13 気候変動・生態系変化という実態を知る。

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①三拍子を知り拍子に合わせて歌唱することができる。 ②三拍子をステップ等の身体表現で表すことができる。	①短調と長調の調性の違いを感じ、感じたイメージを言葉で表す。 ②音遊び・言葉遊びのユーモア性を感じ、表現することを楽しみ自ら表現の工夫をしようとする。	①季節と生物の生態に意識を向け環境への関心や他教科とのつながりを感じ取っている。 ②楽曲のもつ面白さを他者と共感する。 ③発表に向けて、役割を持ち協力しながら練習に参加する。

5. 単元の指導計画（全4時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価備考
1	<p>○《みのむしのワルツ》の歌とミノムシについて知る。</p> <p>・《みのむしのワルツ》を聴く。</p> <p>・《みのむしのワルツ》を歌う。 （部分練習と全体通しによる音取り）</p> <p>・部分練習をしてから、通しで歌う。</p> <p>・《みのむしのワルツ》のCDを聴き、イメージを膨らませる。</p> <p>・《みのむしのワルツ》のイメージを言葉で表す。</p>	<p>・時候の話題から始め、自由に発言できる雰囲気をつくる。</p> <p>・季節の話題とミノムシの生態を話す。</p> <p>・ミノムシの画像を提示し、ミノムシの生態について説明する。</p> <p>・本時の歌唱曲名を伝える。</p> <p>・《みのむしのワルツ》を模範唱し、楽曲のイメージを音楽で伝える。</p> <p>・歌詞の面白い所を尋ねる。</p> <p>・質問に共感しながら応える。全体に問いかける。</p> <p>・イメージが共有できるように、出てきたキーワードを復唱する。</p> <p>・CD演奏を聴いて面白いと思った所を尋ねる。</p> <p>・次回の内容を伝える。</p>	<p>△ア① (知・技)</p> <p>△イ② (思・判・表)</p> <p>△ウ② (主体的)</p>

2	<p>○《みのむしのワルツ》の歌と身体表現を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・《みのむしのワルツ》を通して歌う。 ・三拍子を手足の拍子で感じる。 ・三拍子を左右の横揺れで感じる。 ・《うみ》を横揺れの動きとともに歌う。 ・《うみ》と《みのむしのワルツ》を聴き比べる。 ・短調のニュアンスを感じ取る。 ・通して歌唱する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の内容を思い出せるように話をする。 ・やや遅めのテンポで歌詞の先読みをする。 ・①1拍目のみ手拍子②1拍目手拍子、2,3拍目足拍子で拍子を捉えられるようにする。③左右横揺れで捉える。 ・《うみ》も三拍子だったことを伝える。 ・聴いて(比べて)どんなことを感じたか聞き取る。 ・発言に共感する。 ・次回の内容を伝える。 	<p>△ア1 △ア2 (知・技) △イ1 (思・判・表) ウ2 (主体的)</p>
3	<p>○ミノムシのアクセサリーを作り、発表会の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通し練習をする ・アクセサリーを作る ・自分の好きな色合わせで作る ・友だちとそうだんしながら作る ・完成品を見せ合う ・完成品を身につけて通し練習をする。 ・並びや移動の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会をすることを伝える ・演出として手作りアクセサリーを製作することを伝える。 ・文具と材料を選びやすいように並べる。 ・行程を見守り、さりげなく助言をする。 ・発表会に向けて、楽しく歌うための心構えを伝える。 	<p>△ア① △ア② (知・技) △イ② (思・判・表) △ウ① △ウ② △ウ③ (主体的)</p>
4	<p>○発表会で歌い、感想文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと協力しながら発表会を楽しみ、歌う。 ・聴衆の感想を聴く。 ・指導者の感想を聴く ・感想文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過度な緊張をせず楽しめるように声をかける。 ・録画をする。 ・みんなで協力して進めたことが成功につながることを伝える。 ・一人ひとりに声をかける。 	<p>△ア① △ア② (知・技) △イ① △イ② (思・判・表) △ウ① △ウ② △ウ③ (主体的)</p>

みのむしのワルツ

詞：新沢としひこ 曲：中川ひろたか

しほめのワルツ

1. かれほのむすにくさるまて
2. かれほのドレスをゆめに見て

みのむしたちはねむる
みのむしたちはねむる

きたのうたにふかれこ
かぜのうたにだかれこ

ゆらりゆらりとゆれる
ゆらりゆらりとおどる

みのむしのののワルツ

あきがおわるるるワルツ